

はじめに

甲子プロジェクト五カ年計画の端緒に就く—第一巻発行に際して—  
生活美学にねざした鳴尾学

生活美学研究所 森 田 雅 子

六甲山の北方の、兵庫県の懐より山間を蛇行し南東方向へ、大阪湾に流れ下る武庫川との息の長いやりとりの中で、人々は上代より入海に流れ込む支川の三角州上や河口の州浜や低地に鳴尾という地域をつくりあげていきました。武庫川の運ぶ恵みともたらした水害は表裏でした。しかし一方では、古くから人々の暮らしを支えた漁業、農業の生業は暮しの礎でもあったのです。こうして漁業に縁の深い鳴尾の漁師さんたちに授けられたえびす様は西宮神社にまつられました。今日、えびす様は靈験あらたかな福の神として日本全国、津々浦々で人々の信仰心を集めるようになっていきます。豊かな稲作の実りは酒造業へと展開し、さらには宮水の発見で飛躍的に灘七郷の酒の品質が向上しました。大阪湾に面した地の利を利用し、中世以降 廻船が産品を搭載してさかんに行き交うようになり、水運業もめざましく繁栄しました。全てこれらのなりゆきは武庫川の水の流れなくしてはありえなかったのではないのでしょうか。

鳴尾地域でも大正期から近代的住宅地としての開発が着手されます。鉄道は敷設され、風致は整えられます。かつては大衆の慰みは祭でした。しかし工業化が進み、古い共同体が揺らぎはじめると、人心を突き動かす、新たな大衆娯楽が現れ、遊園施設など新しい名所が建設されました。競馬、野球の観戦、飛行機の観覧に供すべく、鳴尾グラウンド、甲子園球場、阪神パークなどが設えられました。そして同時に「都会的生活様式」の殿堂として旧甲子園ホテルが竣工されました。現在では武庫川学院の上甲子園キャンパス、建築学科の学び舎として蘇るとともに、地域貢献を担い、地域のシンボルとして愛されています。

武庫川の流れはこうして六甲山と甲山と鳴尾の甲子園を、人々と大自然の連綿とした営為の中で繋げ、聖地・名勝としてリンクしていったのです。この開発の歴史を、謹んで振り返り、生活美学の観点から、新たな鳴尾学の基軸を、皆様とともに、探究したいと考えています。まずは甲子プロジェクト遂行の最初の五ヶ年については、地域の皆さまに研究交流と篤いご支援をお願いする次第でございます。